

多様な山里海を巡り個別最適に学ぶ

「多地域共創型」医学教育拠点の構築

「文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
(山里海医学共育プロジェクト)

事業報告書





1	事業責任者挨拶	1
	岡山大学医学部長 豊岡 伸一	2
2	事業概要	3
	事業概要	4
	プログラム	5
	運営体制	8
3	専任教員紹介	12
	岡山大学 香田 将英	13
	島根大学 大和田 芽衣子	13
	香川大学 駒澤 伸泰	13
	鳥取大学 中野 俊也	13
4	事業全体に関する事業報告	14
	事業全体の経過報告(令和4年度～令和5年度)	15
	シンポジウム・全国フォーラム等	17
	高校生向け地域枠・地域医療合同説明会	22
	4大学地域枠学生に対するアンケート	23
	臨床実習教育に関する協定書	23
5	大学ごとの事業報告	24
	岡山大学	25
	地域医療 Early Exposure プログラム	25
	公衆衛生学マスター養成プログラム	26
	地域医療 リーダー養成教育プログラム	27
	VRやMRを活用した教育の開発	28
	生成AIを活用した教育の開発	29
	島根大学	30
	多地域共創型医療実習／総合診療学マスター養成プログラム	30
	夏季・春季地域医療実習	30
	フレキシブル地域医療実習	31
	香川大学	32
	地域医療実習での学び	32
	キャリア意識調査／キャリアデザインセミナー	33
	Society 5.0 情報駆動型社会	33
	鳥取大学	34
	救急・災害医学／感染症学マスター養成プログラム	34
6	教育プログラム・コースの状況	35
7	外部評価委員一覧および評価	36
	外部評価委員一覧	37
	令和4年度の評価	37
	令和5年度の評価	37
8	その他	39

1

山里海医学共育プロジェクト 事業責任者挨拶



岡山大学医学部長 豊岡 伸一



時代は大きな転換期を迎えています。コロナ禍を経て、医療をめぐる環境は一変し、新たな課題が山積しております。こうした中で岡山大学は、島根大学、香川大学、鳥取大学の3大学と力を合わせ、「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に取り組むことになりました。

本事業の中心となるのは、4大学が共同で構築する革新的な「多地域共創型」医学教育モデルです。各大学の学生が4大学に関連する個性豊かなフィールドで学びを深め、多様な地域課題に実践的に取り組むことで、確かな識見と高い使命感を身に付けることができます。

それぞれの大学が強みを持ち寄り、相乗効果を生み出すことこそが、この新しい取り組みの大きな特長です。岡山大学医学部は150

年以上の伝統と実績を有しますが、単独ではなく、島根大学、香川大学、鳥取大学との緊密な連携を通じて、より優れた教育プログラムを提供してまいります。

4大学が一丸となり、そして産学官が手を携えることで、地域に寄り添い、地域の実態に即した卓越した医療人の養成が可能になります。コロナ禍で浮き彫りになった医療現場の課題に、着実に対応していくことが期待されます。

変化の時代にあって、4大学との協働を軸に、未来を見据えた先駆的な取り組みを進めてまいります。本事業への更なるご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

2

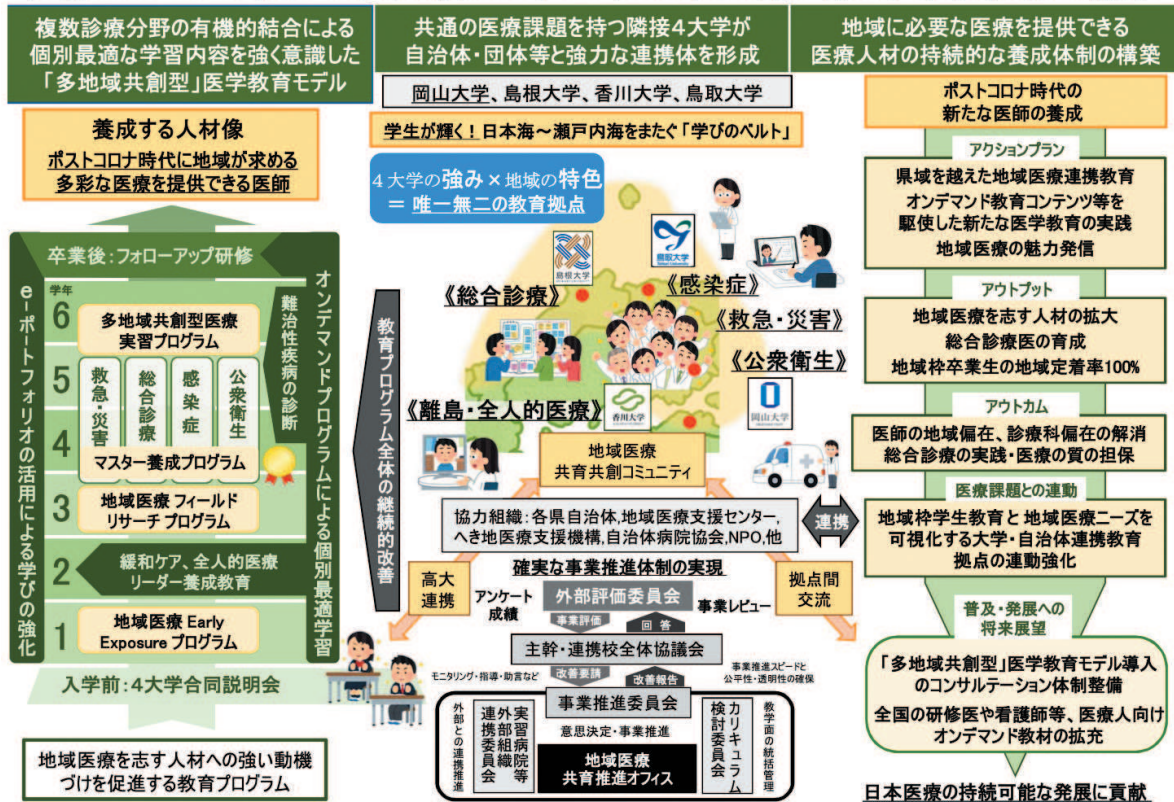
山里海医学共育プロジェクト 事業概要



事業概要

令和4年度概算要求 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ「多地域共創型」医学教育拠点の構築



岡山大学、島根大学、鳥取大学、香川大学の4大学は、令和4年から7年間、文部科学省補助事業ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定されました。4大学がこれまでに培った医学教育の豊かな個性と強みを掛け合わせ、中国四国地域最大級となる唯一無二の地域医療人材養成拠点を構築することを目的としています。

「地域医療が求める人材を養成」

学生が多彩な地域ならではの医療課題を個別最適に学習・体験することで、地域が求める優れた医療を提供できる医師を広く養成します。

「4大学の多地域共創型」

各大学が豊かな個性と強みを掛け合わせ、新たな「多地域共創型」医学教育モデルを構築・推進します。

「持続可能な医療の発展に貢献」

多くの地域医療課題を共有する4大学が相乗的に連携協働することで、地域医療が求める優れた先駆的医師を養成し、我が国の持続可能な医療の発展に貢献します。

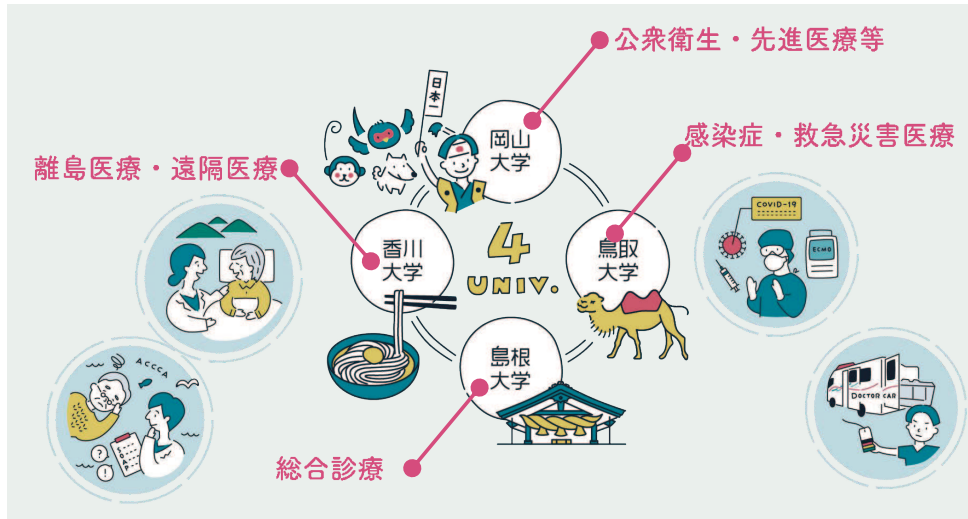
4大学の強み

岡山大学：公衆衛生、先進医療（臓器移植）、初期診断、緩和ケア

島根大学：総合診療

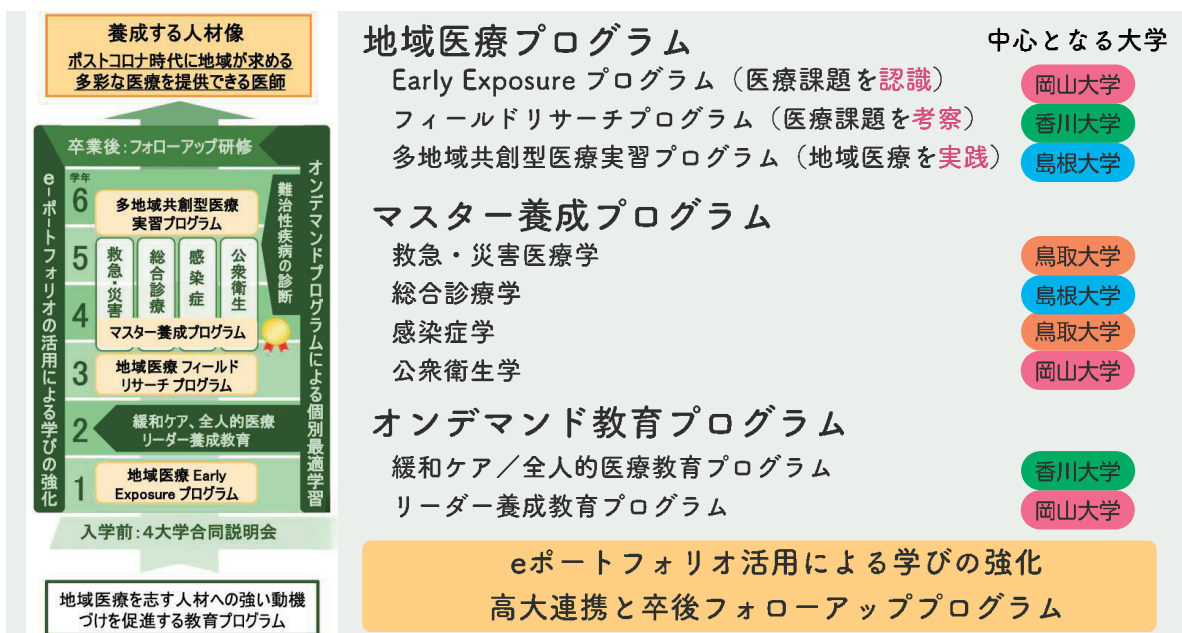
香川大学：離島医療、遠隔医療

鳥取大学：感染症医療、災害医療



プログラム

各大学の強みを活かした教育プログラムを4大学で共通化し、地域のニーズを踏まえた新たなプログラムを開発しています。下記は、申請調書における4大学の連携プログラム構想案を掲載します。



地域医療プログラム

地域医療 Early Exposure プログラム

医学的な知識は僅かしかない時期ではあるが、実際の現場へ出てみることで、将来のゴールのひとつである「本当に必要とされる医療」の姿を知ることが出来る。さらに、患者も含めた地域の方々と交流し、医療的な問題のみならず「人間が生きることの本質」についても深く考える機会とする。

地域医療フィールドリサーチプログラム

地域医療体験実習、地域診断実習を通して、地域医療課題を抽出し、解決方法について科学的な視点から考察を行う。学生は4県での実習が可能で、より多彩な地域医療に触れる機会を持ち、各地域により課題が異なっていること、その解決方法も異なってくることを考察する。また、その成果を学生間で共有することにより、自身のみでは経験できなかった地域医療の魅力や課題を共感する。課題解決に向けて自分たちは何ができるのかを考える機会とする。

多地域共創型医療実習プログラム

これまでの知識と技能、態度をもって、地域医療の現場に入り、医療・介護・保健など医療におけるサービス・システム等の多様性や課題を理解し、科学的な視点を踏まえて住民一人一人や地域全体のウェルビーイング向上への貢献を実践する機会とする。地域医療の魅力と課題について改めて考え、中山間地や離島など多彩な地域で活躍するロールモデルとの出会いを通して、将来の地域医療人としての目標を明確にする。



マスター養成プログラム

救急医学・災害医療学マスター養成プログラム

病院内での診療だけでなく、救急車やドクターカーに同乗することで、病院前診療にも積極的に参加し、診療のみならず、現場でのコミュニケーションを含めた態度教育も合わせて行う。また、重症、重篤な患者への診療も経験することで、前方もしくは後方で連携する地域医療に求められる医療を理解し、考える機会を持つ。また、突発的に発生する多発外傷や災害医療なども、ホロレンズやバーチャルリアリティ（VR）を使用した教育、EMARGOトレーニングによるシミュレーションにより、多くの学生に対し同じ機会を提供する。



総合診療学マスター養成プログラム

初診外来で医療面接、身体診察により得た情報を基に、臨床推論を行い、指導医とのディスカッションを通して臨床推論の型を学び、診察の実践を繰り返し行う。また、その中で、

難治性疾患の初期診断や診断困難症例についても多く経験し、診療経験の蓄積を行うとともに、地域医療で求められる「専門医へ適切にコンサルトできるスキル」も身につける。また、日常遭遇する疾患や傷害の治療・予防、保健・福祉など幅広い問題について適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供出来、社会のニーズに対応出来る総合診療医の役割を知り、「患者中心の医療」を支える理論をエキスパートから体系的に学ぶ。

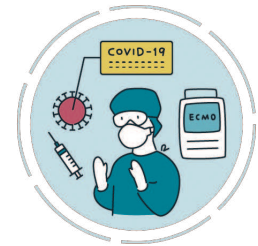


感染症学マスター養成プログラム

「将来のすべての地域医療人の感染症リテラシーを高める」ことを目標とし、従来からの臨床感染症学の教育内容に加えて、すべての分野の医師が新興感染症流行下でも通常医療を遂行するために必要となる知識を獲得する。安全な感染症教育のため、感染症患者診察現場や、防護具を着用しての医療実施現場をVR上で再現して教育を行うなど、VR、シミュレーション、リモート教育を積極的に取り入れる。「将来のすべての地域医療人にとっての必須知識」であることから、卒後も継続して学べるプログラムとする。感染症に対応できる地域医療を担う医師に加えて、感染症に強靱な地域と本邦の医療体制を担う医療人を養成する。

公衆衛生学マスター養成プログラム

地域保健および産業保健の現場などに関する講義・実習を行う。実習では、単なる見学だけでなく、地域保健、産業保健における課題の解決法をより実践的に、かつ、より最適な解決方法を考える。テーマごとにコンペティションを実施し、興味を持って実習に臨み、大学を超えて学生交流を行うとともに切磋琢磨できる環境を整える。また、新型コロナウイルスで問題となった、地域における感染対策（クラスター対策や病院間連携）を学ぶ。



オンデマンドプログラム

地域医療 全人的医療教育プログラム

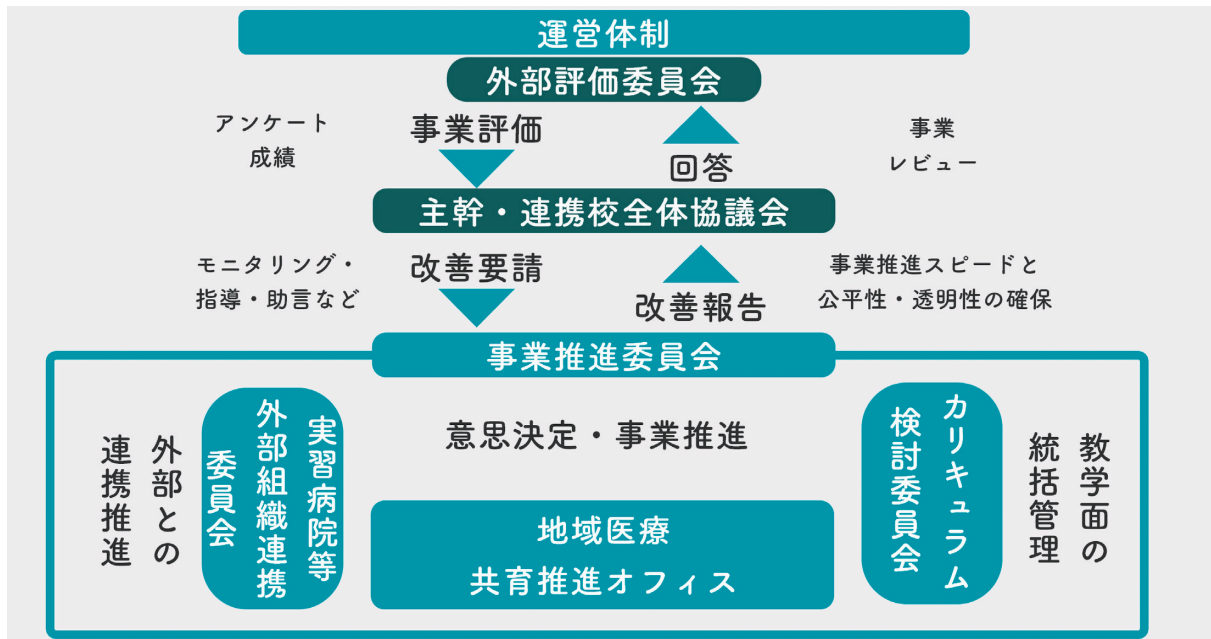
地域医療ではより深い全人的医療が求められる。「緩和ケア研修」、「ACP研修」、「ユマニチュード研修」、「ナラティブ・ベイスト・メディスン研修」により患者医師関係の構築について多面的なアプローチで全人的医療について理解を深める。

地域医療 リーダー養成教育プログラム

地域医療で求められる素養となる、「リーダーシップ」、「フォロワーシップ」、「非認知能力」の理論を理解した上で、事例をとおしてより具体的に理解を深める。



運営体制



4大学を中心に各県自治体などの協力組織と事業を実施しています。事業の推進は主幹校の医学部長を委員長とする事業推進委員会が中心となり、その中にカリキュラム検討委員会、実習病院等外部組織連携委員会、地域医療共育推進オフィスを設置しています。そして事業推進委員会とは別に主幹校・連携校の研究科長・病院長等の代表者クラスで構成される主幹・連携全体協議会を設置し、モニタリング・指導・助言、事業推進スピードと公平性・透明性の確保が担保される事業実施体制としています。自己評価体制として受講学生・臨床実習病院等にアンケートを行い主幹・連携校全体協議会に諮り評価を実施しています。大学関係者、医療関係者からなる外部評価委員会を設け、アンケート結果を含む事業全般に対してレビュー・評価をうけています。

委員名簿 (2024年 3月時点)

事業推進委員会

所 属・職 名	氏 名
岡山大学・医学部長	豊岡 伸一
島根大学・医学部長	石原 俊治
香川大学・医学部長	西山 成
鳥取大学・医学部長	景山 誠二
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座教授	小川 弘子
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田 将英
島根大学・医学部地域医療支援学講座教授	佐野 千晶
島根大学・医学部総合医療学講座教授	牧石 徹也
島根大学・病院医学教育センター／地域医療共育推進オフィス(兼任) 助教	大和田 芽衣子
香川大学・医学教育学教授	横平 政直
香川大学・医学教育学准教授	坂東 修二
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒澤 伸泰
鳥取大学医学部地域医療共育推進室 特命教授	中野 俊也
鳥取大学医学部地域医療学講座准教授	孫 大輔
鳥取大学医学部附属病院・高度救命救急センター教授	上田 敬博
鳥取大学医学部附属病院・臨床感染症学講座教授	千酌 浩樹
岡山大学病院・副病院長(教育担当)	伊野 英男

カリキュラム検討委員会

所 属・職 名	氏 名
岡山大学・医学科教務委員長	細野 祥之
島根大学・医学部地域医療教育学講座教授	長尾 大志
香川大学・医学教育学教授	横平 政直
鳥取大学医学部副学部長(教務担当)	中曾 一裕
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座教授	小川 弘子
島根大学・医学部地域医療支援学講座教授	佐野 千晶
香川大学・医学教育学准教授	坂東 修二
鳥取大学医学部地域医療共育推進室 特命教授	中野 俊也
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス特任准教授	香田 将英
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒澤 伸泰
島根大学・病院医学教育センター／地域医療共育推進オフィス(兼任) 助教	大和田 芽衣子

実習病院等外部組織連携委員会

所 属・職 名	氏 名
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座教授	小 川 弘 子
島根大学・医学部 地域医療支援学講座教授	佐 野 千 晶
香川大学医学部附属病院・ 地域医療教育支援センター教授	星 川 広 史
鳥取大学医学部地域医療共育推進室 特命教授	中 野 俊 也
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス特任准教授	香 田 将 英
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 岡山県地域医療支援センター岡山大学支部助教	野 島 剛
香川大学・地域医療共育推進オフィス特命教授	駒 澤 伸 泰

主幹・連携校全体協議会

所 属・職 名	氏 名
岡山大学病院 病院長	前 田 嘉 信
島根大学医学部附属病院 病院長	椎 名 浩 昭
香川大学医学系研究科長	西 山 成
鳥取大学医学部長 鳥取大学大学院医学系研究科長	景 山 誠 二
岡山大学・医学部長	豊 岡 伸 一
岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療人材育成講座教授	小 川 弘 子
岡山大学・学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス特任准教授	香 田 将 英

外部評価委員会

所 属	職 名	氏 名
聖マリアンナ医科大学救急医学講座	教 授	藤 谷 茂 樹
国際医療福祉大学大学院 医学部医学教育統括センター・ 感染症学	センター長・ 教 授	矢 野 晴 美
千葉大学医学部医学教育研究室	特 任 教 授	清 水 郁 夫
社会医療法人清風会岡山家庭医療センター	所 長	松 下 明
自治医科大学・ 医学教育センター医療人キャリア教育開発部門	特 命 教 授	菅 野 武

事務担当者

所 属	氏 名
岡山大学・大学院医歯薬総合研究科等 地域医療共有推進オフィス 事務担当	田 淵 真理子
島根大学・医学部学務課教育改革・教務担当/ 地域医療共有推進オフィス（兼任）	半 井 弘 樹
香川大学・医学部（医学部教育センター内） 地域医療共有推進オフィス	野 田 由 紀
鳥取大学・米子地区事務部学務課専門職員	岩 井 康 博
鳥取大学医学部地域医療共有推進室	足 穂 春 日



3

山里海医学共育プロジェクト 専任教員紹介



3 専任教員紹介



岡山大学 ■ 香田 将英

2023年1月から本事業の専任教員として岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィスに着任致しました。本オフィス着任前は、臨床は精神科医／産業医、研究は公衆衛生としてこれまで働いてきました。精神科の領域では、精神的なしなやかさを表す「レジリエンス」という言葉がありますが、レジリエンスは個人に求めるものではなく、環境で作り上げていくものです。学生が多様なフィールドで個別最適に学べる環境を構築することで、自らの心に志の火を灯し、将来それぞれの地域で光り輝けるように、日本海から瀬戸内海をまたぐ「学びのベルト」を構築して参りたいと考えております。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



島根大学 ■ 大和田 芽衣子

2月1日に島根大学に着任した大和田です。これまでは、シミュレーション教育を通じて自ら考え行動する医療者を育成することを目指してきました。この度は、岡山大学と香川大学、鳥取大学の先生方とともに「多地域共創型」医学教育拠点を構築する本事業に参加することができ大変光栄に思っております。島根大学は、地域医療を実践するリーダーの育成と共に、卓越した総合診療能力の習得を目指すプログラムを担っております。微力ですが、学生の皆様が十分な学修成果を得られるように尽力したいと考えております。何卒、よろしくお願い申し上げます。



香川大学 ■ 駒澤 伸泰

2023年4月から香川大学医学部地域医療共育推進オフィスに着任いたしました駒澤伸泰と申します。臨床背景は、麻酔科学と緩和医療であり、これまで卒前卒後臨床教育、多職種連携教育、学修支援、シミュレーション教育を専攻してまいりました。データサイエンス・AIの発展により現在、我々が突入しているSociety 5.0における地域医療教育の推進に少しでもお役に立てれば幸いです。地域医療教育においても「学修の主体は医学生」であることには変わりなく、彼らのアクティブラーニングを支援できるような教育体制を整えていきたいと考えています。ステークスホルダー各位の温かいご指導、ご支援をお願い申し上げます。



鳥取大学 ■ 中野 俊也

令和5年4月1日付で鳥取大学医学部地域医療共育推進室特命教授に就任致しました。私は平成2年に鳥取大学を卒業後、母校の脳神経内科に入局し、神経内科学と神経病理学を専門として大学および関連医療機関での診療、教育、研究に従事しておりましたが、平成14年からは鳥取大学医学部医学教育学分野の専任教員となり、モデル・コア・カリキュラムや診療参加型臨床実習の導入、医学教育分野別評価の開始など、全国的に大きな医学教育改革が進む中で、医学部全体のカリキュラム構築・運営全般にわたる業務に携わってまいりました。その後、令和2年に松江医療センターに赴任し、コロナ禍という困難な状況下での医療連携を行う中で、地域医療現場における優秀有能な人材の必要性、大学病院を含む全ての医療人が地域医療マインドを持つことの重要性を強く実感するに至りました。私自身のこれまでの経験を活かしつつ、山里海医学共育プロジェクトが大きな実を結ぶよう、力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4

山里海医学共育プロジェクト 事業全体に関する事業報告



4 事業全体に関する事業報告

事業全体の経過報告（令和4年度～令和5年度）

令和4年度

9月	事業開始
	事業推進委員会を設置
10月	第1回事業推進委員会を開催
11月	11月4日に「キックオフシンポジウム」を開催
12月	第2回事業推進委員会を開催
1月	岡山大学地域医療共育推進オフィスに専任教員が着任
	第3回事業推進委員会を開催
	第1回全国フォーラム（筑波大学・東京医科歯科大学主幹）に出席
2月	薬師寺慈恵病院の薬師寺 泰匡先生を講師として 令和4年度地域枠学生・卒業生勉強会（共催）を開催 『だから救急は面白いんよ「外伝」 やっくん先生のそこが知りたかった救急外来での検査値の読み方』
	第1回 2月7日（火） 「肺炎なのかい？肺炎じゃないのかい？どっちなんだい？」
	第2回 2月14日（火） 「1秒を争え！外傷での攻める血液検査！！」
	第3回 2月28日（火） 「敗血症をしゃぶり尽くす」
3月	3月1日に岡山県内の地域実習・臨床実習受入病院のうち、6病院を対象に訪問および意見交換を実施
	3月18・19日に「指導者養成講習会 地域医療共育のためのシミュレーション研修（CoCoSim）」を開催
	3月29日に地域医療教育勉強会「VR、MRを活用した地域医療教育とデジタルツール」を開催
	第1回カリキュラム検討委員会を開催
	第1回実習病院等外部組織連携委員会を開催
	第1回主幹・連携校全体協議会を開催
	第1回外部評価委員会を開催



令和5年度

4月	4月より鳥取大学、香川大学の地域医療共育推進オフィスに専任教員が着任 第1回オフィス教員合同ミーティングを開催
	4月19日にマウントサイナイベスイスラエル病院の原田 洸 先生を講師として 「医師のためのChatGPT活用術入門」(共催)を開催
6月	第4回事業推進委員会を開催
7月	第2回オフィス教員合同ミーティングを開催
	7月9日に「地域医療を支えるための呼吸療法セミナー」(共催)を開催 7月30日に「第10回地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップ」 (共催)を開催
8月	8月4日にYouTubeLive配信で高校生向けに4大学合同で 地域枠・地域医療合同説明会を開催
	8月19日に「2023年度地域枠学生・自治医科大学生合同セミナー」(共催)を開催 第3回オフィス教員合同ミーティングを開催
9月	第2回カリキュラム検討委員会を開催
10月	第4回オフィス教員合同ミーティングを開催
11月	11月11・12日に「指導者養成講習会 地域医療共育のためのシミュレーション研修 (CoCoSim)」を開催
	11月14日に「地域医療シンポジウム」を開催 11月17日に「成果報告シンポジウム多地域共創型医学教育シンポジウム in 島根」を開催
12月	第5回オフィス教員合同ミーティングを開催
1月	1月5日に「医学・保健分野の教育研究における生成AIの活用」岡山大学医学部DXセミナー (共催)を開催
	1月6日に臨床疫学ワークショップ「生成AIを研究支援に活用しよう」 (共催)を開催 第1回全国フォーラム(千葉・東邦大学主幹)に出席
2月	島根大学に専任教員が着任
	第6回オフィス教員合同ミーティングを開催 第2回外部評価委員会を開催
3月	第3回カリキュラム検討委員会を開催
	第5回事業推進委員会を開催
	第2回実習病院等外部組織連携委員会を開催 第2回主幹・連携校全体協議会を開催

シンポジウム・全国フォーラム等

令和4年11月4日 キックオフシンポジウム 開催



令和4年11月4日、文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」キックオフシンポジウムを本学鹿田キャンパスで開催しました。

令和4年度に採択された本事業では、主幹・連携の4大学（岡山、島根、香川、鳥取）の医学部が、それぞれの強みと特色を掛け合わせ、中国四国地域最大級となる唯一無二の地域医療人材養成拠点を構築することを目標として掲げています。4大学の実施責任者が、各大学でのこれまでの地域医療教育と今後の取り組みについて紹介しました。

シンポジウムには、大学医学部関係者、地域医療に携わる医師、医学部生の他、近隣の県庁関係者、本事業に採択された他拠点関係者など111人（会場参加66人、オンライン参加45人）が参加し、活発な質疑応答も行われました。最後に、岡山大学の榎野博史学長の閉会の辞、会場参加者全員による記念撮影の後、約2時間に及ぶシンポジウムは、盛況のうちに幕を閉じました。

内 容

日 時 令和4年11月4日（金）16:00～18:00

会 場 岡山大学鹿田キャンパス 鹿田会館（旧生化学棟）・2階講堂（岡山市北区鹿田町2丁目5-1）

- | | | | |
|---|-------------|--------------------------|---------|
| ① 開会の辞 | 16:00～16:05 | 国立大学法人 岡山大学 理事 | 高橋 香代 |
| ② 来賓あいさつ | 16:05～16:10 | 岡山県保健福祉部 部長 | 徳本 史郎 氏 |
| ③ 来賓あいさつ | 16:10～16:25 | 文部科学省高等教育局医学教育課長 | 伊藤 史恵 氏 |
| 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の目的と4大学連携事業への期待 | | | |
| ④ 事業概要説明 | 16:25～16:45 | 岡山大学 医学部長 豊岡 伸一（事業推進責任者） | |
| 「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ「多地域共創型」医学教育拠点の構築」について | | | |

5 これまでの地域医療教育と今後の取り組みについて 16:50～17:50

座長：事業推進責任者 豊岡 伸一

岡山大学 地域医療教育責任者 小川 弘子（岡山大学 地域医療人材育成講座 教授）

島根大学 地域医療教育責任者 佐野 千晶（島根大学 地域医療支援学講座 教授）

香川大学 カリキュラム開発責任者 横平 政直（香川大学 医学部医学教育学 教授）

鳥取大学 事業責任者 中村 廣繁（鳥取大学 医学部長）

6 閉会の辞 17:50～18:00 国立大学法人 岡山大学 学長 榎野 博史

令和5年1月11日 全国フォーラム出席



令和5年1月11日に一橋講堂で開催されました全国フォーラムに登壇いたしました。採択された11の主幹校、15の連携校を始めとした関係者が一堂に会し、ポストコロナ時代の医療人材育成プログラムについて議論がなされました。

令和5年11月17日 「令和5年度多地域共創型医学教育シンポジウム in 島根」を開催

令和5年11月17日に「令和5年度多地域共創型医学教育シンポジウム in 島根」を島根大学医学部で開催しました。

内 容

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
 「多様な山・里・海を巡り個別最適に学ぶ『多地域共創型』医学教育拠点の構築」
 2023年度 多地域共創型医学教育シンポジウム in 島根
 「地域医療を話し合おう。地域医療でつながろう。地域医療の学びを深めよう。」

日 時 2023年11月17日（金）（13:30～17:00）【ハイブリッド形式】

会 場 島根大学医学部 臨床大講堂（Live配信併用）

- ① 開会の辞 13:30～13:40 国立大学法人島根大学 医学部長 石原 俊治
 国立大学法人島根大学 医学部附属病院長 椎名 浩昭
- ② 来賓あいさつ 13:40～13:50
 文部科学省高等教育局医学教育課 課長 俵 幸嗣氏
 島根県健康福祉部 部長 安食 治外氏
- ③ 事業概要説明 13:50～14:00
 岡山大学地域医療共育推進オフィス特任准教授 香田 将英
- ④ 特別講演 14:00～14:50
 隠岐島前病院参与、しまね総合診療センター長 白石 吉彦氏
 「地域医療めっちゃおもしろいやん！」
- ⑤ 事業成果報告 15:00～16:00
 岡山大学地域医療共育推進オフィス特任准教授 香田 将英
 島根大学地域医療支援学講座教授 佐野 千晶
 香川大学地域医療共育推進オフィス特命教授 駒澤 伸泰
 鳥取大学地域医療共育推進室特命教授 中野 俊也
- ⑥ 医学生実践報告、質疑応答 16:00～16:50
 「実習の学び・楽しさ・発見」
 島根大学医学部医学科4年生 山崎 祐次郎
 岡山大学医学部医学科2年生 實延 正喜・橘高 みなみ
- ⑦ 閉会の辞 16:50～17:00
 国立大学法人岡山大学 医学部長 豊岡 伸一





第一部では、特別講演として隠岐島前病院参与・しまね総合診療センター長 白石 吉彦 氏による「地域医療めっちゃおもしろいやん！」と題して、地域医療の魅力や、しまね総合診療センターで取り組まれている中山間地域や離島などで活動する総合診療医同士をつなげるバーチャルオフィス（NEURAL GP network）についてご講演いただきました。

第二部では、本事業の事業成果報告として、岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域医療共育推進オフィス 香田将英 特任准教授、島根大学地域医療支援学講座 佐野千晶 教授、香川大学地域医療共育推進オフィス 駒澤伸泰 特命教授、鳥取大学地域医療共育推進室 中野俊也 特命教授より、各大学の事業進捗の報告がありました。その後、島根大学医学部医学科4年生の 山崎祐次郎 さん、岡山大学医学部医学科2年生 實延正喜 さん、橘高みなみ さんから「実習の学び・楽しさ・発見」として医学生実践報告がありました。



事業全体に
関する事業報告



シンポジウムには、医学部生、大学医学部関係者、地域医療に携わる医師の他、近隣の自治体などの関係機関、本事業に採択された他拠点関係者など225名（対面 160名【内、島根大学医学生 120名】、オンライン参加 65名）が参加し、活発な意見交換も行われました。最後に、本事業の実施責任者である岡山大学 豊岡伸一 医学部長の閉会の辞により約3時間半に及ぶシンポジウムは、盛況のうちに幕を閉じました。

令和6年1月19日 全国フォーラム出席

令和6年1月19日に千葉大学で開催されました第2回全国フォーラムにて、事業報告を行いました。また、総合討論にも出席いたしました。



高校生向け地域枠・地域医療合同説明会

令和5年8月4日 高校生向け地域枠・地域医療合同説明会開催【アーカイブ動画公開】



令和5年8月4日にYouTubeLive配信で高校生向けに4大学合同で地域枠・地域医療合同説明会を開催しました。

リアルタイムで182人が視聴、参加者は高校1～3年生が中心で、3年生が約7割でした。

アーカイブ動画は401回再生(令和6年3月時点)。

「医学生の話をもっと聞きたい」、「体験をしたい」等というように、対面でのイベントを希望している参加者の声もみられました。

事業全体に
関する事業報告

アーカイブ動画



<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/report/477.html>

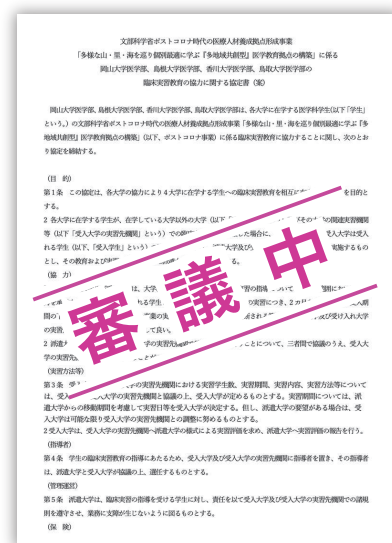
4大学地域枠学生に対するアンケート



令和5年7月20日～8月20日に、4大学の地域枠学生に対して、学生から広く本事業に関する期待や希望等についてアンケートを行いました。

各大学の学生計104名から回答があり、「各大学の地域医療教育について知りたい」「オンラインでの学びの機会が欲しい」「交流会その他の場が欲しい」等の希望の声が寄せられました。

臨床実習教育に関する協定書



カリキュラム検討委員会、各大学事務・教務担当者間での協議を経て、臨床実習教育に関する協定書案を作成しました。

本年度中に、再度、カリキュラム検討委員会に協議後に事業推進委員会に諮り、決定していく方針です。

..... 5

山里海医学共育プロジェクト 大学ごとの事業報告



岡山大学

地域医療 Early Exposure プログラム

山里海医学共育プロジェクトの地域医療 Early Exposure プログラムに位置づけられた、地域医療実習の報告シンポジウムが岡山大学MUSCAT CUBEで令和5年11月14日に開催されました。岡山大学医学部医学科1年生の実習参加者と、地域医療人材育成講座との共同開催です。

この地域医療 Early Exposure プログラムは、各地域で超高齢社会において変化し続ける医療の現状とその課題を正しく認識し、地域において求められる医師像を自らのキャリアに投影しつつ学び成長することを目的として、1年生を対象とした地域医療実習です。実習参加者は、昨年度の2022年度が53名、今年度である2023年度が延べ43名でした。

地域医療シンポジウムは、実習に参加した1年生が中心となって企画・運営を行います。ポスター作成から受付、当日の司会進行まで務め上げました。地域医療シンポジウム当日は実習に参加していない学生も含め、学生 現地92名、地域医療指導教員 現地8名、オンライン17名が出席しました。

その後に開催された地域医療指導医講習会では、自治医科大学医学教育センターの松山泰先生を講師にお招きし「地域医療を活かした学びとは？実践コミュニティの特性から考える」をテーマに講演いただき、教員現地4名、オンライン18名が参加しました。講演後は今年度の地域医療実習の様子などの意見交換を行いました。



公衆衛生学マスター養成プログラム

令和5年11月4日に国立療養所長島愛生園を訪問し、フィールドワークを実施してきました。岡山大学医学部医学科地域学修タスクフォース、岡山大学医療系学習サークルILOHA、岡山大学地域医療人材育成講座との合同企画です。

長島愛生園は岡山県瀬戸内市にある国立ハンセン病療養所で、1930年に発足しました。長島にはもう一つ邑久光明園があります。1943年のピーク時には邑久光明園と長島愛生園それぞれ1,171名、2,009名で併せて世界第三、長島愛生園だけでも世界第四で国内最大の入所者がおられました。

岡山大学医学部医学科学生計11名が参加し、歴史館で国のハンセン病政策と長島愛生園での出来事について学んだ後に、愛生園スタッフと歴史回廊（患者収容棧橋、収容所、監房、納骨堂）、そして十坪住宅や光ヶ丘恵の鐘を見て廻りました。

学生からは、「現場を見に行くことの重要性を改めて実感した。」また、「入所者の生活や当時の社会状況を知ることができた」との感想もありました。COVID-19流行のために、岡山大学医学部としても長島愛生園の実習地域訪問がしばらく中断していました。しかし、ポストコロナ時代の学びの重要性をこの訪問を通じて再確認することができました。

さらに、2023年4月には新しい研修施設「むつみ交流館」が開館しています。当ポストコロナ事業としても重要な実習地域として取り組んで参りたいと思います。



地域医療 リーダー養成教育プログラム

令和5年11月11・12日に医療シミュレーションを通して地域医療の教育現場で役立つCo-learning手法を学ぶ教育コース「CoCoSim: Simulation program for Co-learning Community healthcare」を開催しました。

この教育コースは、参加者間が相互のコミュニケーションを通じて教え合い、学び合う、「共育」に関する能力向上により重点をおいて学ぶ、医学教育用シミュレーターを用いたシミュレーション研修です。

今回で第二回目となるCoCoSimでは、岡山大学教育推進機構学習・教授支援部門との協働で社会的スキルとして重要な「包括的リーダーシップ」にも焦点をあてて学習できるコースとして設計し、オリジナルの学修コンテンツを作成しました。

岡山大学の当事業専任オフィス（地域医療共育推進オフィス）と地域医療人材育成講座との共同主催、ハワイ大学Simtikiシミュレーションセンターと教育推進機構学習・教授支援部門との共催で開催しました。

参加者13名、講師およびスタッフ14名、学生フェロー3名が参加しました。様々な背景の参加者・スタッフが参加し、本拠点の連携大学である岡山大学、島根大学、香川大学、鳥取大学の大学・関連病院の地域医療に携わる教員のほか、自治医科大学、琉球大学、慈恵医科大学、東京女子医科大学、岐阜大学、そしてハワイ大学の教員が連携して一つのコースを作り上げていきました。

新しい研修コースを創り上げる過程は、様々な発見の連続ですが、研修修了時の参加者の皆さんの顔を見て、改めてこのコースの重要性を認識することができました。CoCoSimは来年度も更に洗練した内容になるように作り上げていきます。



指導者養成講習会 地域医療 共育のためのシミュレーション研修 CoCoSim Simulation program for Co-learning Community healthcare

2023
11/11-12
(土・日)

- 「共育 (Co-learning)」という言葉をご存知でしょうか。地域医療教育を実践する際に、従来の手法に加えてお互いに教え合い、学び合う共育手法を用いると、組織や地域全体の能力向上につながることを期待されます。
- CoCoSim (Simulation program for Co-learning Community healthcare) は、シミュレーションを通じて共育手法に関する能力向上に重点をおいて学ぶ教育コースです。
- 「山形海医学共育プロジェクト」では、共育に関するスキルを学ぶ場を創設を目的に、岡山大学教育推進機構学習・教授支援部門、ハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンターとの協働により、従来の地域医療人材に求められる新たな教育プログラムを開発しています。
- 第二回目のCoCoSimとなる今回は、第一回目からさらにパワーアップして、習得の強みを引き出す「インクルーシブ・リーダーシップ (包括的リーダーシップ)」に特に焦点をあてて設計しています。多くのご参加をお待ちしています。

- | | |
|---|---|
| 開催要項
日 時：2023年11月11日(土) 13時～18時
12日(日) 9時～13時
場 所：岡山大学東田キャンパス
地域医療人材育成センター岡山
MUSCAT CUBE Sim1~3
参加費：無料 | 募集要項
地域医療教育に携わっている医師
これから地域医療教育に関わりたい医師
定員15名
(応募者多数の場合は調整します)
2日間ともに研修に参加できること
(語彙知識あり、英語能力は不問) |
|---|---|

講師

Benjamin W Berg 先生
 Jannet Lee-Jayaram 先生
 (ハワイ大学SimTikiシミュレーションセンター)
 大西 裕美 先生 (島根大学)
 万代 裕弘 先生 (東京慈恵医科大学)
 八木 由子 先生 (自治医科大学)
 平田 博昭 先生 (熊本大学)
 森田 裕典 先生 (岡山大学)
 小川 弘子 先生 (岡山大学)
 石田 和生 先生 (岡山大学)
 原田 幸雄 先生 (岡山大学)
 伊藤 美穂 先生 (岡山大学)

申込 (10月8日(日)20時迄最終締め切り)
 下記フォームからお申込みください
<https://forms.office.com/1288A858U8Nk>

お問い合わせ
poscoro@okayama-u.ac.jp

岡山大学地域医療共育推進オフィス
 岡山大学教育推進機構学習・教授支援部門
 ハワイ大学SimTikiシミュレーションセンター

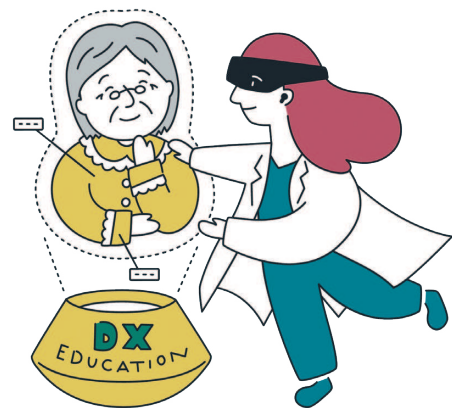
本報告は、文部科学省「2023年度教育関係者向け調査報告書」の「地域医療共育」の項目に基づき作成されたものです。
 「地域医療共育」は、多岐にわたる分野で実施されている活動の総称であり、本報告書では、その中でも「シミュレーション」に焦点を当てて紹介しています。

VRやMRを活用した教育の開発

地域医療 全人的医療教育プログラムの教育コンテンツの一つである次世代マルチモーダルケア技術「ユマニチュード」研修プログラムの試験的な取り組みとして、岡山大学医学部保健学科看護学専攻の基礎看護および老年看護学実習の中で HEARTS (Humanitude AR Training System) を使用した実習が行われました。

HEARTS は HoloLens 2 を用いて 拡張現実 (Augmented Reality: AR) の中で、「見る、触れる、話す」スキルを包括的に学習できる、ユマニチュードAR訓練システムです。

本実習では、岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科インタフェースシステム学分野の中澤篤志先生を講師に、基礎看護実習では看護学生79名、老年看護学実習では看護学生8名が参加し、2人一組でHoloLens 2を着用し、患者・看護師役を交互に行いながら学びを深めていきました。実習後には、新鮮な体験だけではなく「言葉だけでは理解しづらい部分が実際に体験できて勉強になった」等のフィードバックをいただきました。



岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科主催セミナー
優しさが伝わるケア ユマニチュードを知ろう

ユマニチュード
「人間らしさを取り戻す」という意味をもつフランスの造語であり、「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを相手理解できる方法で伝えます

ARデバイスを使ったユマニチュードスキルトレーニング体験ができます
医療職以外の方も、ご関心をお持ちの方はぜひご参加ください！

参加費無料
180名様
要事前申込
先着順

【対象】 医療介護職、一般の方々
【日時】 9月30日(土) 14:00~15:30
【会場】 岡山大学津島キャンパス工学部5号館 第15講義室
岡山市北区津島中3丁目1番1号

第1部 講演
「ユマニチュードを知ろう」
● ユマニチュードとは
● ユマニチュードをいたケア
● 質疑応答
講師: 森山由香
ユマニチュード
チームリーダー
社会福祉法人ひまわり
小児科看護部看護実践推進室
SHEAR 課 管理室

第2部 講演
「ユマニチュード教育最前線
-デジタル技術を用いた学習支援-」
● 拡張現実 (AR) の中で
ユマニチュードの基本的スキル
「見る、触れる、話す」を学ぶ
● 質疑応答
講師: 中澤 篤志
(岡山大学ヘルスシステム
統合科学研究科 教授)

主催: 岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科
共催: 日本ユマニチュード学会、岡山大学大学院医歯薬学
総合研究科地域医療推進推進オフィス

フォームからお申し込みください
<https://www.gisheh.okayama-u.ac.jp/social/koukaikouza/program/>
<https://forms.office.com/r/ZApYvin67>
<https://www.okayama-u.ac.jp/healthcare/education/>

【文部科学省がポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業】
山里海医学共育プロジェクト

ハンズオン
実演あり

VR、MRを活用した
地域医療教育とデジタルツール

VR (仮想現実) を使った医療教育では、現実に近い環境で、様々なシミュレーションやトレーニングができることが特徴です。MRはVRとAR (拡張現実) を組み合わせた技術で、現実世界に仮想的な要素を組み合わせることができます。今回、認知症を持つ方や高齢者のケアで有効と考えられている「ユマニチュード」のVR、MR教育について、実際に体験しながら学べる機会を準備しました。興味のある方はぜひご参加下さい。

対象: 地域医療とデジタルツールに興味のある医学生、医師
日時: 2023年3月29日
15時00分 ~ 15時40分 「地域医療とデジタルツールの活用」
15時40分 ~ 17時00分 現地のみハンズオン実演
会場: ハイブリッド開催
現地 岡山大学地域医療人材育成センター MUSCAT CUBE 3階 会議室

定員: 現地 40名、オンライン 100名
参加費: 無料
申し込み: <https://forms.office.com/r/ZApYvin67>
お問い合わせ: poscoro@okayama-u.ac.jp
主催: 地域医療共育推進オフィス、地域医療人材育成講座

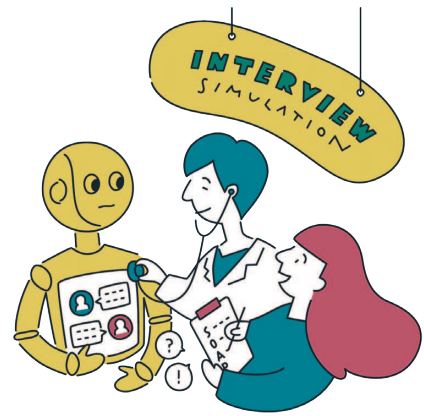
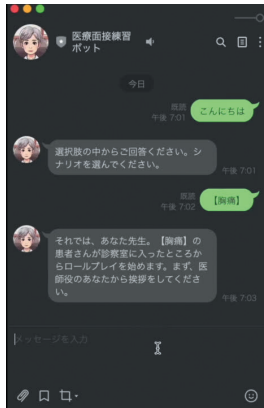
本研修は、文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「多様な山・海を巡り個別最適に学ぶ多地域創型型『医学教育拠点の構築』」の一環で行います。

生成AIを活用した教育の開発

昨今、ChatGPTをはじめとした生成AIの活用に注目が集まっています。生成AIを正しく活用すれば、どの施設・地域で働いていても、その恩恵を享受できる可能性があります。

本事業では、低学年の地域医療実習を念頭に置いたEarly Exposure プログラムもあることから、実習前のコミュニケーションスキルに不安を抱く学生も少なくはありません。そのため、いつ・どこにいても、医療面接の練習ができるように、AI支援型医療面接練習システムの開発を行っています。医療面接のロールプレイだけでなく、対話のやり取りを評価してフィードバックすることで、効率的・効果的な自己学習が可能です。さらには、中～高学年の地域医療実践における医療面接技術の自己学習に応用考え、開発を進めています。

2024年1月5日には、岡山大学医学部主催のDXセミナーで岡山大学地域医療共育推進オフィスが共催となり開催いたしました。翌6日も当オフィスと日本若手精神科医の会の共催企画で「生成AIを研究支援に活用しよう」と題したワークショップを開催しています。



島根大学

多地域共創型医療実習／総合診療学マスター養成プログラム

島根大学では、地域医療教育フィールドとして、離島コース、中山間地コース、診療所コース、地域中核病院コースを手掛けています。参加型実習で実践機会が充実し、熱心な教育布陣であり、総合診療スキルの修得が望めます。また、日本の未来を創る課題解決先進地で、本当の意味でのプライマリ・ケアの概念（ACCCA：Accessibility(近接性)；Comprehensiveness(包括性)；Coordination(協調性)；Continuity(継続性)；Accountability(責任性)）が理解できる機会を提供しています。



夏季・春季地域医療実習

高学年以外の医学生も参加できる夏季・春季地域医療実習を提供しています。二次医療圏ごとに圏域の医療資源を見渡す実習として保健所が立案しています。他大学医学部でも出雲からの旅費宿泊費制度がある全国的にも珍しい制度です。圏域の地域医療全体を見渡すことが出来るプログラムとなっており、病院だけでなく、診療所、個人医院、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、義肢工房、保健所などが実習のフィールドに含まれています。また、在宅診療や地域包括ケア関連の会議などへの参加機会もあります。

低学年の参加が主で、地域に出かけるというのは初めてという学生も多かったのですが、病院や診療所では外来診療の見学の他に、訪問診療・看護・リハビリテーションに同行し、地域

住民の生活や多職種連携の実際を学ばせて頂きました。2023年には、島根大学の他、鳥取大学、筑波大学、長崎大学、自治医科大学、千葉大学学生が実習に参加しました。

フレキシブル地域医療実習

フレキシブル地域医療実習は、自分の「やりたい」をカスタムに企画してもらった実習です。本事業により、フィールドを県外の地域医療機関にも拡充し、岡山県新見市の哲西診療所、岡山県奈義ファミリークリニック、香川県小豆郡小豆島中央病院、鳥取県日野郡日南病院などに学生が実習に参加することができました。いつもと違う地域で実習することにより、自分がホームとする地域での医療を俯瞰し、課題や解決策について考える機会になった、各地域により求められる医療が異なることなど、様々な気づきが得られています。

今年の参加学生は、本フレキシブル実習での報告会発表を機に実習内容をまとめ、学会でのポスター発表を行いました。実習での実践を振り返ることにより、経験を言語化し社会発信するスキルを習得する機会にもなりました。

地域での総合診療医の役割を理解し、プライマリ・ケアの実践力が身につくような真の参加型プログラムへと更に発展させていきたいと思えます。



香川大学

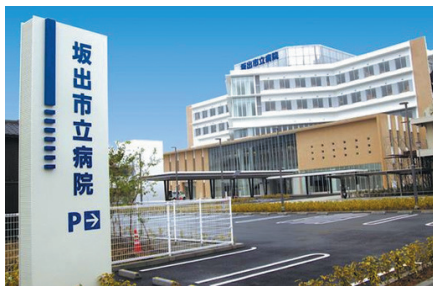
地域医療実習での学び

香川大学医学部では、基本理念の中にも「地域の医療及び心理援助の充実発展に寄与すること」と明記され、地域医療の教育を重視しています。本事業開始前の従前から県と学生、県と大学のいずれも情報交換を定期的に行い、さらに、県が主催して、近隣病院と香川大学地域医療教育支援センターが地域医療実習のイベントを行なっています。また、医学部医学科カリキュラムにおける地域医療関連科目は1年次の医療プロフェッショナリズム、2年次の行動科学とチーム医療、5、6年次の臨床実習があり、大学として地域医療教育を推し進めています。

本事業で設置された地域医療共育推進オフィスでは、地域枠に限定されない地域医療の普及、未来の地域医療を担うのは現在の医学生、学びの主体は学修者であることを念頭に地域医療教育に取り組んでいます。これから数十年の医師キャリアの中で、地域医療の変化に対応でき、後進育成を行うスキルを習得する医師の育成を目指しています。

医学生達が使命と地域での役割を省察しながら臨床現場で自信をもって活躍するための取り組みとして、選択臨床実習（5～6年生）で地域医療1クールが必須となっています。例えば、離島医療として、坂出巡回診療（坂出市立病院）に参加するなど取り組んでいます。しかしながら、ただ単に参加するだけではなく、事前に①島で今増加している病気と対処法、②島での巡回診療の役割、③緊急性の高いものはどうしているのか、④病気以外の問題（投薬管理・入浴管理など）をどのようにして行い医師のもとに情報が共有されているのか、⑤巡回診療を地元の人はどう感じるのか、といった学修項目を自己確認して実習に臨むようにしています。

実際に実習した学生の省察の中でも、「先生と患者さんの会話はより生活を把握した会話になっていた」「地域医療にはその地域特有の関係性がある」といった学びが得られています。



キャリア意識調査／キャリアデザインセミナー

現在の医学教育では、生涯教育・キャリアデザイン教育の充実が重視されています。現在、医学部医学科学生全体に対するWEB調査を実施しています。本調査は香川大学医学部倫理委員会から承認を得て、初期臨床研修、後期専門研修、専門医取得以後の意識を調査しているところです。

これから数十年医師として働く中で、生涯学修と変化に対応できるスキルを修得する必要性として、激変する地域医療構造の中での自分の在り方を省察するスキルを育成する目的で、キャリアデザインセミナーを学生を対象に令和5年に3回実施しました。また2024年1月18日には岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）の第87回医学教育セミナーで、キャリアデザインワークショップを開催しました。

第1回香川大学医学部医学科キャリアデザインセミナー
～卒業後の進路・専門をみんなで考えよう～
日時：2023年5月17日（木）18:00～19:00
場所：臨床講義棟2階
対象：香川大学医学部医学科全学年対象
第1回テーマ：卒業後の進路・専門をみんなで考えよう～
第2回香川大学医学部医学科キャリアデザインセミナー
～卒業後の進路・専門をみんなで考えよう～
日時：2023年10月4日（木）18:00～19:00
場所：臨床講義棟2階
対象：香川大学医学部医学科全学年対象
第2回テーマ：日本専門医機構による新専門医制度を考えよう！
第3回香川大学医学部医学科キャリアデザインセミナー
～卒業後の進路・専門をみんなで考えよう～
日時：2023年12月6日（水）17:30～18:30
場所：臨床講義棟2階
対象：香川大学医学部医学科全学年対象
第3回テーマ：「医学博士」を取得する意義について考えよう！

第87回医学教育セミナーとワークショップ（WS-1）

キャリアデザインシミュレーションを体験してみませんか！

日時：
1月18日（木）13:00～16:00

開催形式：
Web開催

Society 5.0 情報駆動型社会

今後Society 5.0 によって地域の考え方が大きく変わると言われています。様々な地域の問題が解決しながら、新たな課題が生まれてくることが予想されています。さらには地域包括ケアシステムをみたときに、急性期から慢性期まで非常に複雑なシステムを理解してもらう必要があると考えています。「真の」地域連携のために、求められることを見据えて地域医療教育の取り組みを推進していきたいと考えております。

鳥取大学

救急・災害医学／感染症学マスター養成プログラム

とりだい夏プログラムの実施

鳥取大学では、令和5年7月31日～9月15日の期間に、山里海医学共育プロジェクトの一環として「2023とりだい夏プログラム」を実施し、岡山大学、香川大学、島根大学、鳥取大学、自治医科大学の医学科1年次から5年次まで計17名の学生が参加しました。

〈参加者内訳〉

岡山大学	1名
香川大学	4名
島根大学	6名
鳥取大学	5名
自治医科大学	1名



プロジェクトの正式実施に先駆け、鳥取大学が提供する「救急医学・災害医療学マスター養成プログラム」と「感染症学マスター養成プログラム」の内容を夏休み期間中に受講者の希望に合わせたスケジュールで実施しました。

救急・災害医療コースでは高度救命救急センターの現場での実践的な診療参加型臨床実習が行われ、参加者からは「救急医療現場の緊迫感を肌で感じながら、ドクターヘリ要請から検査、診断、治療までの一連の流れを体験できた」「大都市圏にも引けを取らない高度な救急医療を体験して地域医療に対するイメージが大きく変わった」等の感想が聞かれました。

感染症コースでは実際の患者さんに対する医療面接、身体診察、カルテ記載等を含めた診療参加型臨床実習、多職種カンファレンスへの参加、保健所実習などが行われ、「症候から疾患や起病菌を特定していく臨床推論の重要性を認識した」「患者さんとどのように接するかを学べた」「多職種カンファレンスではそれぞれの専門職の視点を活かした考えが印象的だった」等の感想が聞かれました。

今回のプログラムであきらかになった問題点等について十分に検討し、今後の正式実施に向け、より良いプログラムを構築していきたいと考えております。



6 教育プログラム・コースの状況

教育プログラム・コースの名称	対象者	令和4年度	令和5年度
		受入実績	受入実績
地域医療 Early Exposure プログラム	1年次	53	43
地域医療フィールドリサーチプログラム	3年次	1	117
多地域共創型医療実習プログラム	5年次	2	15
	6年次	0	23
		他学年10	他学年4
公衆衛生学マスター養成プログラム	5年次	1	1
	6年次	0	4
			他学年10
救急医学・災害医療学 マスター養成プログラム	5年次	0	5
	6年次	0	1
			他学年12
総合診療学マスター養成プログラム	5年次	0	1
	6年次	0	8
感染症学マスター養成プログラム	5年次	0	3
	6年次	0	1
			他学年6
地域医療 リーダー養成教育プログラム	2年次	0	0
	5年次	0	0
	卒業生	14	13
地域医療 全人的医療教育プログラム	2年次	0	0
	5年次	0	0
	卒業生	0	0
			他学年1、他学科87

受入実績人数は、正課・インテンシブの双方を含めて計上

7

山里海医学共育プロジェクト 外部評価委員一覧および評価



7 外部評価委員一覧および評価

令和5年3月22日（水）、令和6年2月20日（火）に外部評価委員会を開催いたしました。

外部評価委員一覧

聖マリアンナ医科大学救急医学講座 教授	藤谷 茂樹
国際医療福祉大学大学院医学部医学教育統括センター・ 感染症学 センター長・教授	矢野 晴美
千葉大学医学部医学教育研究室 特任教授	清水 郁夫
社会医療法人清風会岡山家庭医療センター 所長	松下 明
自治医科大学・ 医学教育センター医療人キャリア教育開発部門 特命教授	菅野 武

令和4年度の評価

- 地域枠の医学生を主な対象としたプログラムであるが、将来的にはすべての医学生に内容を浸透させることを目標としている。
- 地域医療教育にかかわる教員のリソースが限られている課題については、オンライン教材や実習病院の医師に対する指導者養成講習会を充実化していくことで、リソースの蓄積と拡大を徐々に行うことで対応していく。
- eポートフォリオの開発については、既存のLMSを活用しつつ、全国で進んでいるCC-EPOC開発の動向も追いながら、必要な機能について検討していく。
- ロールモデル発見や交流の場として、医学生や卒業生が集うリトリートの機会を作ることを検討する。高大連携で高校生との交流の機会を設けることも検討する。

令和5年度の評価

- 2年間でよく取り組んでいると思う。高大連携の取り組みも素晴らしい。数の限られた地域枠の学生を育てて行く際には、男女共同参画の視点も取り入れて欲しい。SNSやMatterMostを用いたオンラインプラットフォームの取り組みを進めていって学年を超えた連携を目指して欲しい。拠点間の連携もさらに進めて欲しい。
- 4大学がそれぞれの強みを活かす取り組みは素晴らしい。地域医療と一言にいても非常に広い概念であるため、地域医療に具体的に何が求められるかを、更に言語化して欲しい。

い。コンピテンシーのレベルまで言語化することで、本事業の意味がより明確になり、教員・学生間で共有しやすくなると考える。多地域共創型実習の取り組みで、島根大学が提示した具体的な研修場所などをほかの県も提示すると教員・学生共に興味深い取組になると思う。

●来年度から本格的に事業が始まるという印象を持った。実習のフィールドが広がると、現地の先生方がeポートフォリオ等をどうやって使うのかという、いわゆるFDが重要になってくると考えられる。さらなる取り組みに期待したい。

●予算の削減は非常に残念である。アウトカムの一つに総合診療医の育成が掲げられているため、専攻医などの若い世代とも交流し、キャリアロールモデルに低学年のうちから会えるような取り組みを行なって欲しい。例えば、若手専攻医がいる診療所を地域医療実習の受け皿とするような仕掛けづくりをお願いしたい。今の1, 3, 5-6年生に実習の機会があるというのは良い仕組みだと考えている。今回の「とりだい夏プログラム」のように、正課・非正課かかわらず各大学の枠組みに何人かずつでも他大学の学生が参加できるように仕組みを作ってほしい。高大連携の取り組みも、オンラインで費用を抑えることは可能だと考えるため、年1回だけではなく年内に定期的で開催するなどの工夫を検討して欲しい。4大学合同で高大連携することは学生・保護者にもメリットがあると思う。

●非常に多くの取り組みをしていると思う。中間報告書等のときに報告できるように理解度と満足度のような受講者側の評価指標を積み重ねることが望ましい。特にVRを用いた教育やリーダー養成プログラムのような試験的な取り組みに関しては、受講者の評価を参考に改善していける仕組みを作ることが望ましい。



第2回外部評価委員会（令和5年度第1回）2024年2月20日

8 その他

「山里海医学共育プロジェクト」は、4つの大学が連携し、質の高い地域医療人材の育成を目指しています。本ウェブサイトでは、プロジェクトの概要や成果を広く発信しています。実習やイベントの様子についても、写真やイラストを用いて分かりやすくご紹介しております。

各大学の強みを活かした特色ある取り組みを通じて、将来の医療現場で求められる実践力の養成に努めています。地域医療に関心を持つ医学生、教職員の皆様、さらには一般住民や将来医療従事者を目指す高校生の皆さんにも、本プロジェクトの内容をお伝えできればと考えております。

本ウェブサイトが、プロジェクトへのご理解を深めていただく一助となれば幸いです。



ウェブサイトURL



<https://postcorona.oumed.okayama-u.ac.jp/>



[文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業]

山里海医学共育プロジェクト

